

◆静内会場◆

議会報告会・意見交換会における主な意見等

令和2年2月14日（金）開催

意見交換会テーマ：「介護サービス事業及び病院事業の今後について」

- まきばは廃止するということだが、静内で老健施設を廃止して、これからお年寄りが安心して住めるのか疑問に思う。
- 三石病国保院の病床がなくなるということで大きな問題になっている。
三石で開催したまちづくり懇談会では、どこも反対の声が強い。高齢化して、三石国保病院がなくなったら、静内や浦河まで行って入院しなければならないのか、みんな心配している。
- 地元にてできてまだ新しい介護事業所で、まきばが廃止になるということでの利用希望者が多くなっている。まだ、検討段階ということだが、将来的に廃止になるので相談に行くように振り分けもされているようで、これでは、まきばはもう利用できない、なくなるんだという考えになってしまうのはやむを得ないと思う。その辺をもっと懇切丁寧に説明しないと誤解だけが先に進んでしまう。
- 病院のことも介護のことも町民にとっては切実な問題。赤字になって公的などがやっていけないと言っているのに、民間になってやっていけるのかなど不安があるのは事実。
身近なところに入院施設がないと、年をとって運転できなくなったときなどの心配がある。赤字だからといってなくすのではなく、必要なものはなんとかしてもらいたい。
- 病床利用率はなぜ低くなっているのか。医師不足もあるかもしれないが、要因の分析をして今後のあり方を考えていかなければならないと思う。医師不足は我が町だけの問題ではないのではないのか。
まずは病床の利用率を高めていき、外来の往診率も高めていく。これらの工夫は病院側としてもやっていると思うが、議会と連携を取りながら今後の方向性を考えてもらいたい。
- 三石国保病院は昭和27年につくられてからずっと病床をおいたまま続けられているが、病床がなくなるということで住民は大変心配している。
働いている人も自分たちの仕事がなくなるということで動揺し、不安に駆られて、すでに見込みがないと言って辞めた人もいると聞いている。
資材を地元業者から購入していると思うが、そういった業者にも影響すると思うし、栄養士などいろんな業種の方が不安に思っている。
老後を三石で過ごしたいと思っている人たちは、果たして入院ベッドのない地域で老後を過ごすことができるのだろうかという不安に陥られるので、そういう不安を取り除き、どうしたらこの地域で住み続けられるのか、そのような条件をつくらなければならないと思う。

－その他－

- 新ひだか町自治基本条例という最高規範があるが、町行政の中でいろいろな町の課題について町の考え方や施策を行っていかうとしているときに、この基本条例に沿って、行政の職員や議会議員のみなさん方、我々町民が一体となっていて行われているのかどうか、この検証が非常に寂しく思っている。存在しているからいいという形にはならないと思っている。

議会基本条例の見直しについてはどのように考えているのか。

- 町の財政がひっ迫しているということで一般会計からの繰入も困難だと聞いた。そのような中で図書館や総合町民センター、跨線橋をつくってしまった。そのことにより町の財政がどれくらいひっ迫しているのか、町民一人当たりどれくらいの負債を抱えていることになるのか。

赤字財政が原因で、ゴミ袋の料金が上がったり公民館などの使用料が上がったり、病院や介護のほうの赤字補てんが難しくなって、そっちのほうもしわ寄せがくるといった状況になったことについて、議会としてどう考えているのか。